

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立可部高等学校	校長	工藤 宏一	生徒指導主事	後藤 朋之
取組事例名	『可部高「出前授業」プロジェクト』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
① 説明の仕方・方法を通して、論理的に伝える技術を理解する。 ② 社会の諸課題とその解決について掲載されている教材を踏まえ授業を作成する。 ③ 出前授業を通して、論理的に伝えるときの工夫やコツを理解する。	【知識及び技能】 社会が抱える諸課題とその構造、効果的な表現の仕方 【思考力、判断力、表現力等】 論理性、自律性、協働力 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に社会貢献ができる人間に成長しようとする姿勢



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
○可部高「出前授業プロジェクト」の概要を知る。 ○日本や広島県でみられる社会問題について調べ、課題解決に向けた努力や工夫について調べる。 ○調べたことをまとめ、授業構想を作成し、中間発表を行う。 ○中間発表を踏まえて振り返りを行う。 ○情報収集を行い、実際に授業を作成する。 ○模擬授業を行う。 ○出前授業に行く代表者を選ぶ。代表者は小学校と公民館で出前授業を行う。	生徒にめあてをもたせるために ○自分自身の興味・関心・特性を見つめ直し、地域社会の一員でもある高校生だからこそできる地域貢献とはどのようなものか。 ○新しい時代の地域社会を共に築いていく子供たちはどのような問題を抱えているのか、そして、具体的にどのようなサポートができるか。
	生徒の意欲を高めるために ○ワークシート等を用いた講義 ○クラス単位やグループ単位で協議を行う際のファシリテーション ○ICTを用いて行う学年指導 ○外部講師による講演会 ○グループ活動 ○成果発表の機会の創出
	生徒の頑張りを認め、価値付けるために ○単元の節目毎に、個々の生徒が学習過程を振り返り、知識や考えの深まりを実感することができるよう、ポートフォリオ評価を行う。 ○生徒の相互評価活動を行う。



3 成果と課題

生徒に「相手に分かってもらえるようにするにはどうすればよいか」を考える力を付けさせることができた。このことにより普段から人に何かを説明するときなどに相手の立場に立って考えられる場面が増えた。小学生対象のアンケートでは「クイズがあって、自分たちで考える時間をとってくれた」や「図やグラフがあってわかりやすかった」など概ね肯定的な評価であった。

公民館でのアンケートではやや否定的な評価もあり、「出前授業」に対する期待の高さが伺えた。また、公民館の参加者は2室に3名ずつ（計6名）となかなか観客を集めることができなかった。このあたりが今後の課題になると思われる。